

No. 70 2013 年



# 日彫会報

公益社団法人  
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<http://www.niccho.com/> email: [webmaster@niccho.com](mailto:webmaster@niccho.com)

— 芸術の杜 上野からの発信 —



東京都美術館 正面エントランスへ

# 第四十三回日彫展への期待

公益社団法人 日本彫刻会理事長 市村緑郎



東日本大震災から二年、暮れには政界にも大きな変革があり二〇二三年は明けました。皆様には第四十三回日彫展に向けて制作に余念のない毎日かと存じます。

このたびの日彫展は上野の杜回帰二年目の展覧会となります。東京国立博物館をはじめ多くの文化施設の集まる上野は、私どもにとって思いの深い場所でもあります。昨年リニューアルオープンしました東京都美術館はアプローチも整えられ、鑑賞者に優しい美術館となりました。所を得た四十二回展では作品の傾向が改修後の美術館に合っていたのか各々の作品が生き

生きとして全体が活発に見える、との高評もあり、盛会裏に終了することができました。

さて日彫会には創立以来、六十六年という長きにわたり積み重ね醸成されてきた具象彫刻探求の歴史があります。片や、そのアンチテーゼとして、野外彫刻などの抽象が育った事実もあります。いずれも徹底的な手仕事の、ベースツクな修業がその彫刻芸術を支えていることは周知の通りです。そこで伝統に根ざした堅実な具象表現と相俟って野外彫刻または街づくりのためのコンペティション等の少なくなつた今、若者のヴァイタリティ、そのエネルギーの発露をしっかりと受け止めることのできる日彫会でありたいのです。

そしてその際、何よりも大切なことは各々の環境を問わず、手が考える文字通り「制作」を通した素材との対話やそこでの発見開発、その自然さによって誕生する作品、そこにある孤独の中でのきらめく創造の喜びや作家魂の謳歌なのではないでしょうか。

公益社団法人となつて三年目となる今年は、彫刻研究会、ギャラリートーク、タッチツアー、そしてアートライブラリーのさらなる充実を図り、彫刻文化振興に寄与してまいりたいと存じます。また、鑑賞者と作家を繋ぐ友の会につきましても設立のロードマップを策定し、着実に進めてまいります。彫刻に親しんでいただける友の会を考えているところです。

大震災を経て対照的に自然の怖さと母なる大地の優しさを痛感した今日ほど、自然との共創による、生きるとは何かという思い、またそこでの人間存在を問われている時はありません。そしてかつてのような彫刻のある街づくり等が見られなくなつた昨今、彫刻表現への漲る思いを地域社会に発信する場、また鑑賞者の皆様ともどもより高い芸術性を享受する場とするためにも、心に響く力作の共演による第四十三回日彫展であることを願い、期待してやみません。

# 第43回日彫展

上野の杜にて、日彫展は本年第43回を迎えます。東京都美術館ギャラリーA・B・Cを会場として、平成25年4月19日(金)から4月30日(火)まで、生命感豊かな彫刻作品を展示します。多くの方のご来場をお待ちしております。

## ◆ 展覧会企画について

日彫展では毎回出品作家自身が中心となって、彫刻芸術の普及のために、展覧会に合わせて様々な企画を実施しています。

第43回展においては、前回展に引き続き、「彫刻研究会」、「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」、「ギャラリートーク」を行います。

## ◇ 彫刻研究会

「彫刻研究会」では、受賞作品に焦点を当て、受賞作家による作品解説と、それを踏まえた審査員による作品批評・研究を行います。毎回、本会正会員・会友はもとより、一般鑑賞者の方々にも多数ご参加いただいております。作家のための研究会という枠に収まることなく、彫刻芸術を広く知っていただく機会となっております。

慣れ親しんだ上野の地に前回展より戻り、東京都美術館にて意見を交わし語り合えば、日彫会創成期の先達の情熱にも触れるようで感慨深いものです。今回の研究会でも熱の籠もった活発な論議が起ることを期待します。

第43回日彫展「彫刻研究会」の開催日時は、平成25年4月20日(土) 13時～14時半を予定しています。参加を希望される方は、当日の定時に日彫会会場入り口にご参集ください。

## ◇ 触れる彫刻鑑賞プロジェクト

日彫展の企画として恒例となってきました「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」は、本会の展覧会企画としても最も歴史あるものの一つです。視覚に障がいのある方にも彫刻を楽しんでいただきたいという思いのもと、作家が案内する形で作品に直接手を触れて鑑賞していただきます。

内容としては、視覚特別支援学校の児童・生徒が鑑賞する「鑑賞教室」と、成人の方を対象とした「タッチツアー」があります。



第42回展ギャラリートーク風景

## 第43回日彫展図録 広告掲載募集

現在、図録への広告掲載を広く募っております。会員の皆様のお近くに掲載希望の会社、各種学校等がございましたら、事務所までご連絡くださいますようお願いいたします。(係)

本年度の「鑑賞教室」は、都立久我山青光学園、都立葛飾盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校の皆さんが参加する予定です。「タッチツアー」は事前に本会事務局までご連絡をください。いつでもお受けしており、随時ご参加いただけます。作家と鑑賞者と盲導犬が作品を囲み、語っているほのぼのとした風景は展覧会の風物詩ともなっています。

## ◇ ギャラリートーク

「ギャラリートーク」は会期中毎日(4月20日(土)と最終日4月30日(火)を除く)実施しております。毎回多数の方にご参加をいただき、彫刻を鑑賞する際のポイント、作家ならではの視点による制作途中の苦労話など、聞き入ってしまうトークが人気です。参加者の方からの思わぬ質問もあり、作家側にとっても新鮮な感受のある企画となっております。

## 第43回日彫東海展

会場 愛知芸術文化センター 愛知県美術館 ギャラリー  
会期 平成25年5月8日(水)～5月12日(日)

## 第43回日彫北陸展

会場 石川県立美術館  
(石川県金沢市出羽町2-1)  
会期 平成25年6月30日(日)～7月4日(木)

# 《第43回日彫展開催要項》

## 慶 事

正会員 **山田朝彦 先生**

第44回日展 文部科学大臣賞受賞

平成24年10月

## 第84回通常総会報告

日 時 平成25年1月21日(月) 午後3時

場 所 日本藝術院会館 講堂

出席者 87名 委任状 122名

正会員 305名

定款17条の定めるところにより総会成立

その他の出席者 小笠原俊雄 税理士

事務職員 2名

互選により、市村緑郎理事長が議長となった。

議事録署名人 宇津孝志氏・田中厚好氏を選出

### 議事

第一号議案 平成24年度事業報告承認の件

第二号議案 平成24年度決算報告承認の件

監査報告

監事圓鏗元規氏により監査報告があった。

第三号議案 第43回日彫展開催に関する件

第四号議案 会員状況承認の件

全議案とも異議なく承認された。

### 報告事項

一、平成25年度事業計画

二、平成25年度予算

三、新運営委員および新無審査会員

四、第43回日彫展審査員

五、第43回日彫展会友推挙選考委員

六、2013年日彫会選抜展(三越展)準備報告

七、出版物サイズ変更

※内規により祝賀

1月1日に数えて90歳

正会員 原直矢 先生

記念品(時計)と賀詞をお贈りしました。

名称 第43回日彫展  
主催 公益社団法人 日本彫刻会  
会場 東京都美術館 ギャラリーA・B・C  
(東京都台東区上野公園8-36)  
会期 平成25年4月19日(金)～4月30日(火)  
午前9時半～午後5時半(入場5時まで)  
※最終日 午前9時半～午後2時

入場料 (入場1時半まで)  
一般 700円(20名以上一人400円)  
学生(中・高・大生) 400円  
(20名以上一人300円)  
小学生 100円

搬入 身体障がい者手帳をお持ちの方、及び付添2名まで 入場無料  
就学前幼児・70歳以上 入場無料  
東京都美術館 地下3階 日彫展受付  
4月6日(土) 午前10時半～午後4時  
4月7日(日) 午前10時～午後2時  
業者搬入は4月6日(土)とする。

点数 1人1点  
規格 高さ 230cm 以内  
幅・奥行き 各150cm 以内  
重量 1,000kg 以内  
出品手数料 一般応募者 12,000円  
(図録1冊贈呈)

鑑査・審査 4月13日(土)  
入選発表表 4月14日(日)  
午後4時日彫会ホームページにて発表

### 審査員

審査員長 市村緑郎  
神戶峰男 石原昌一  
小比賀強 神野忠和  
熊谷喜美子 嶋畑貢  
川畑祐徳 河村佳則  
間島博徳 山田進

### 会友推挙選考委員

石原昌一 上田久利  
小比賀強 (以上15名)

### 賞

日彫賞 3名  
優秀賞 5名  
新人賞 5名  
西望賞 1名

### 第43回日彫展西望賞審査員

美術評論家 加藤貞雄先生

### 表彰式及びオープニングパーティー

日 時 4月20日(土) 17時

場 所 東天紅上野本店

(東京都台東区池之端1-4-33)

### 搬出

東京都美術館 地下3階 日彫展受付  
4月30日(火) 午後2時半～午後4時半  
5月1日(水) 午前10時～正午

### 選外作品

4月17日(水) 午前10時～午後2時

# 神戸峰男先生

## 日本芸術院会員就任祝賀会

平成24年12月、本会理事の神戸峰男先生が日本芸術院会員に就任されました。この慶事を祝して、1月21日(月)、上野東天紅において本会主催のもと祝賀会が華やかに催されました。会場には本会会員を始め、多くの来賓の方々が集いました。賑わいの中、午後5時の開会となり、盛大な拍手に迎えられて神戸先生が御入場されました。



市村緑郎理事長による式辞では、神戸先生のこれまでの御業績と輝かしい御経歴が披露され、祝意とともに、今後の更なる御活躍を祈念される旨の御言葉が贈られました。そして記念品として、神戸先生がご希望されたというもみの木の記念樹が贈られました。市村理事長の熱のこもった挨拶の後、神戸先生が謝辞を述べられました。神戸先生は、ここまで彫刻の道を歩んでくることが出来たのは、18歳から彫刻の御指導を頂いた清水多嘉示先生をはじめ多くの諸先生方の御指導のお陰であり、今後は受け継いできた諸先生方の彫刻観を正確に後進に伝えていくことで、斯界に貢献していきたいと、感謝の意を表されました。



続いてヴァイオリン奏者の高橋和歌様が、この日のために構成された楽曲を演奏なされ、会場にヴァイオリンの美しい音色が響く、とても優雅な清興が行われました。この後、神戸先生と常務理事の先生方による鏡開きが行われ、能島征二先生の音頭のもと高らかに乾杯を唱和し、祝宴となりました。祝宴では歓談に時を過ぎしながら、神戸先生を囲み語らいの時間となりました。祝宴の中、本会顧問の中村晋也先生から神戸先生に花束が贈られ、会場が一層和やかな雰囲気になりました。楽しい時間は足早に過ぎ、名残惜しくも閉会を迎え、山本眞輔先生による力強い万歳三唱が行われ、祝賀の会が閉じられました。

# 初めて彫刻展をみる方へV

## — 乾漆彫刻について —

乾漆とは奈良・天平時代に大流行した独特の仏像彫刻の技法で、古代中国よりもたらされた。中国では「夾紵（きょうちよ）」日本では「即（そく）」と呼ばれ、4世紀末より夾紵像の造像の記録があります。日本には7世紀初め頃に伝来し、日本での像の制作は白鳳期頃からです。奈良大安寺の丈六釈迦が記録上の初見で、680年頃の奈良当麻寺（たいまでら）の「四天王立像」が最も古い遺例です。

乾漆には脱活乾漆と木心乾漆があります。脱活乾漆は粘土を原型とし、その上に麻布を漆で固め、その後土を取りのぞき内部を空洞とし、表面を木屎漆（こくそうるし）で盛り上げ細部を仕上げる手法です。その後、木彫を芯とし、その上に木屎漆で仕上げる木心乾漆が流行しました。

脱活乾漆で有名な仏像は、東大寺三月堂の「不空罽索観音立像（像高362cm）」で、日本最大です。又同じ奈良県興福寺の「八部衆」「十大弟子像」、唐招提寺の「鑑真和上坐像」、なかでも「阿修羅立像」は大変有名です。木心乾漆像では奈良県聖林寺の「十一面観音像」が有名です。

この伝統の技法を現代に継承し、新しい技法を取り入れて、現代美術の彫刻技法として若い年代層にも浸透し新しい彫刻芸術として開花し始めています。



第27回日彫展 西望賞作品  
《ダナエ（黄金の雨）》  
亀谷政代司

人により技法はちがいますが、一般的には粘土原型より石膏型を取り、型の中に麻布を錆漆（砥粉を水でとき生漆と交ぜた物）で張り込んでいきます。



②よく攪拌し錆漆を作ります



①砥の粉に漆を加えます



③石膏型の中に錆漆をつけて麻布を張り込みます



恵日山観音寺（津観音） 四方如来（五重塔内） 写真：大日如来（脱活乾漆像）

石膏型を割った後、錆漆・木屎漆（木の粉を生漆と交ぜ場合によって小麦粉を水でといた物を交ぜ粘着力と接着力を増す）を使い、型の合わせ目の修正と直付けにより造形をしていきます。



割り出した漆像。直付けによる造形と型の合わせ目の修正

過程こそちがいますができ上がった作品は古代乾漆仏と同じです。最終的に着色する場合も生漆に顔料等を交ぜ擦り込み、磨きをかける事が多いようです。これからも軽く柔軟な特徴を活かした様々な個性的作品が生まれて来る事を期待したいと思います。



完成した脱活乾漆像

(会員 亀谷 政代司)

## 東京彫刻散歩 V

### 《腰かける女》 ブロンズ

ヘンリー・ムーア

(Henry Moore 1898~1986)

設置場所 東京都千代田区丸の内2丁目6番地1号

丸の内ブリックスクエア 一号館広場

昨年の10月に東京駅丸の内駅舎（重要文化財）の保存・復原が完成し、話題になったことは記憶に新しいところです。同駅舎は震災によって失われた屋根と、3階部分にあたる煉瓦造りの外壁を、創建当初（大正3年）の姿に復原したものでした。今年100周年を迎える東京駅は、現在、人が集う駅としての様相を呈しています。

東京駅丸の内南口から少し足を延ばしますと、丸の内駅舎同様に赤煉瓦を使用した建物を観ることが出来ます。こちらの建物は平成22年に復元されたものですが、その原型は、英国人建築家ジョサイア・コンドルによる設計の元、明治27年に丸の内初めて建設されたオフィスビル「三菱一号館」でした。同館は昭和43年に、建築の老朽化のため解体されましたが、三菱地所株式会社は、現存するコンドルの設計図と、当時の文献や写真に基づき復元、「三菱一号館美術館」として開館しました。「丸の内パークビルディング」に入る商業施設「丸の内ブリックスクエア」と美術館の間には草木が配された「一号館広場」

が設けられており、ここには、今回ご紹介するイギリスの彫刻家ヘンリー・ムーアの《腰かける女》という作品が設置されています。

この作品は「彫刻の森美術館」より借り受けて設置されたもので、同美術館の解説によれば、ムーアがパリのユネスコビル前に設置する彫刻を依頼された際に造ったマケットの一つを拡張したものとしてされます。一見してベンチに腰掛けている妊婦の姿であることが伺われますが、腹部と骨盤の量が右側に片寄っている点が特徴的です。この造形的なデフォルメは、ムーアの妻イリナが娘を妊娠していた際に、「赤ん坊が一方に片寄っているように感じる」と語っていたことに由来すると伝わっています（「彫刻の森美術館」作品解説を参照）。



H.160×W.142×D.104cm ブロンズ 1957  
(公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団 所蔵)



復元された三菱一号館美術館と広場の彫刻

石彫による表現を好んだムーアは、モデリング（塑造）よりもダイレクト・カービング（直彫り）を重視していたようですが、戦後はこの作品のようにマケットを元に、石膏直付けなどを駆使して作品を拡大し、ブロンズとして仕上げた作品も多く制作しました。

現代に復元された「三菱一号館美術館」は、明治以降の我が国の発展を象徴するとともに、自然との融合によって作りだされた「一号館広場」は都心のオアシスとして安らぎを与えてくれます。同じく近代日本を象徴する建物として現代に甦った東京駅丸の内駅舎を鑑賞した後に、少し足を延ばしてショッピングを楽しみながら、彫刻を眺めながら憩いの時間を過ごしてみるのはいかがでしょうか。

### 〈散歩のご案内〉

#### ～ 最寄駅 ～

- ・ JR 東京駅より徒歩5分
- ・ 東京メトロ丸ノ内線  
東京駅地下道より直結
- ・ 東京メトロ千代田線  
二重橋前駅より徒歩3分
- ・ 東京メトロ有楽町線  
有楽町駅より徒歩5分

### 訃報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

正会員 平戸美和子 先生 平成二十四年十月  
正会員 尾形喜代治 先生 平成二十四年十二月  
正会員 玉井袈裟信 先生 平成二十四年十二月

### 編集後記

◆編集に際しましてご協力いただきました先生方、並びに公益財団法人彫刻の森芸術文化財団・坂本浩章先生、三菱一号館美術館様に心より御礼申し上げます。

◆今回号より記事の内容を見やすくするため、紙面のサイズを、従来のB5からA4に変更致しました。サイズの変更に伴い、これからもより充実した内容を皆様にお届けできるよう努めてまいります。

◆春を目の前に迎える頃となりました。第43回日彫展も上野の桜に彩られながら開催することになります。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

編集委員 堀内 秀雄 長谷川倫子 三政 洋一  
宮坂 慎司 一畝田 徹 前芝 武史

日彫会報 No.70 平成25年2月28日発行